

豚流行性下痢(PED)特別防疫対策地域指定の解除に向けた取り組み

愛知県東部家畜保健衛生所 ^{いながき} 稲垣 ^{みさと} 美里、^{すぎうら} 杉浦 ^{ふさこ} 総子

1 はじめに

田原市は、豚流行性下痢(PED)防疫マニュアルに基づき、平成26年12月19日にPED特別防疫対策地域に指定後、未だ地域指定解除に至っていない。地域指定の解除に向け、県畜産協会のPEDまん延防止体制支援促進事業を活用し、PEDの再発を繰り返している2養豚団地(14農場)に対する飼養衛生改善指導の取り組みと、その到達点について報告する。

2 取り組み内容

(1) 防疫対策チームの結成

平成28年3月に家畜保健衛生所(以下、家保とする)、県農業改良普及課、各農場管理獣医師の15名を構成員として2団地を指導するチームを結成。随時、方針等のすり合わせを行い、チーム一枚岩で農家への助言・指導を実施した。

(2) 農場汚染状況確認検査(4,5月)

衛生改善指導前の農場の汚染状況を確認するため、中和抗体及び糞便中遺伝子検査を実施し(表1)、その結果に基づいて各農場をA~Cの3ランクに分類した(図1、表2)。

Aランクは、糞便中から遺伝子が検出されず、また移行抗体の消失に沿って抗体価が低下する理想的な状態であるが、今回の検査では該当農場はなかった。Bランクは、糞便から遺伝子は検出されないものの、過去の感染を疑わせる抗体価のばらつきが認められる場合である。Cランクは、糞便から遺伝子が検出され、抗体価のばらつきもみられる場合である。今回の検査を実施した農場は、いずれもB又はCランク判定となった。

(3) 月例勉強会

養豚団地農家とチーム員が毎月集まり、勉強会における決定事項の実行を約束し、第4シーズンにPEDを発生させないという目標を掲げた。目標達成のため、ウイルスを増やさない、ウイルスを減らすという主軸に沿って、以下の項目について検討・確認を行ない、不備な事項についてはチーム員が一体となって改善を指導した。なお、各農家で懸念事項がある場合は、後日個別に相談を受けた。

① 飼養衛生管理

分娩舎へのウイルス侵入を防止するため、分娩舎専用の作業着・長靴の使用を徹底、分娩舎へ移動前に母豚の洗浄・消毒を実施した。また、重機等の団地内共有物品については、農場間のウイルス伝播の原因となるため、使用前後には必ず洗浄消

毒をする等の管理方法を確認した。

② 豚舎消毒

農場全体のウイルス量を減らすため、夏季中に全豚舎の徹底洗浄・消毒を実施した。勉強会では、毎回全農場の進捗状況の確認を行い、気温が低下する前に達成できるように一丸となって取り組んだ。

③ 母豚への免疫付与

母豚を介して子豚へ確実に免疫がつけられるよう、確実なワクチネーションと馴致を実施し、母豚へ免疫付与を行なった。

④ 死亡豚・排泄物の適正処理

農場内の死亡豚はウイルスの感染源となる可能性が高いため、適切かつ速やかな処理を徹底した。排泄物については、堆肥化の過程で適正に温度管理がされ、ウイルスが死滅しているか確認した。

(4) PED 撲滅事例研修会

田原市内養豚農家が参加しやすいよう配慮し、7月に田原市で PED 撲滅事例研修会を開催した。当研修会には従業員及び家族を含む 28 名の農場関係者の出席があり、現場作業者が直接研修を受けることで、具体的な防疫イメージを持つきっかけとなった。

(5) PED 発症を疑う豚の迅速診断

PED 発症を疑う豚が発見された場合は、家保への速やかな通報を徹底させ、迅速に診断できる体制を整えた。平成 28 年 4 月から平成 29 年 2 月末までに、糞便 47 検体中 12 検体が遺伝子陽性となった(図 2)。そのうち、対策が徹底されてきた 6 月以降に陽性となった農場は、後述の(6)における C ランク判定の 2 農場と一致した。

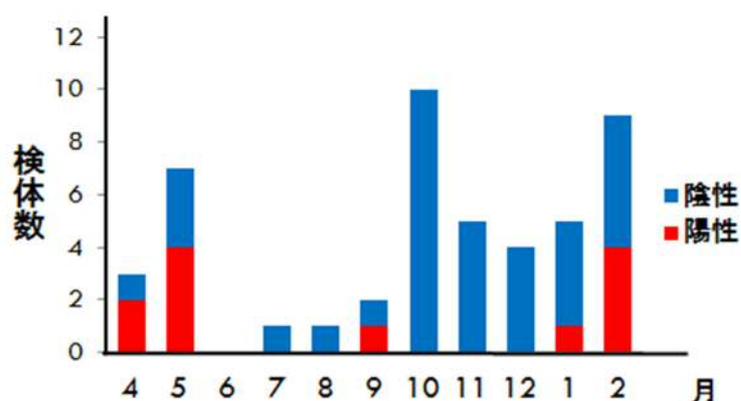


図 2 PED 発症を疑う豚の迅速診断結果

(6) 農場汚染状況確認検査 (10, 11 月)

改善指導効果を検証するため、10 月に(2)と同様の検査を実施した。14 農場中 12 農場が A ランク判定であり、残る 2 農場は C ランクであった (図 2)。

表 1 農場汚染状況確認検査検体数

実施月	4, 5 月	10, 11 月	合計
血清数	305 (1 農場あたり 24)	605 (1 農場あたり 44)	910
豚房数	1, 994 (1 農場あたり 166)	2, 436 (1 農場あたり 174)	4, 430

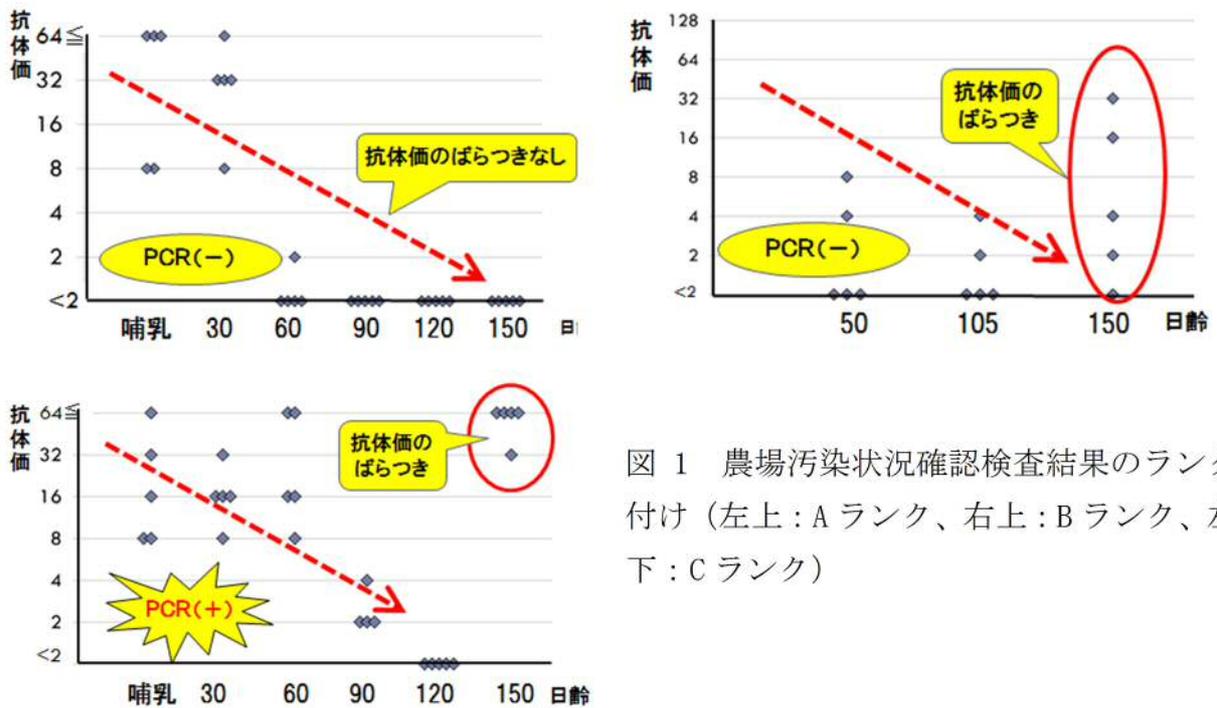


図 1 農場汚染状況確認検査結果のランク付け (左上: A ランク、右上: B ランク、左下: C ランク)

表 2 農場汚染状況確認検査結果

ランク	4, 5 月	10, 11 月
A	0	12
B	2	0
C	10	2

(農場)

3 まとめ

2団地14農場中12農場（Aランク）は、平成29年1月末に非発生農場へ復帰済みであり、今後も現在の衛生対策を継続するよう指導している。一方、残る2農場（Cランク）は平成29年2月に分娩舎で発症があり、農場汚染状況確認検査の結果が反映された形となった。

当該2農場は、①畜主が従業員への的確に指示ができない、②豚舎構造により消毒不十分等の問題が残っている。①については、家保と管理獣医師で根気強く指導をし、少しずつ改善へ向かっている。②については、豚の飼養頭数を調整し、豚房をまとめて空にすることで、十分な洗浄消毒を実施中である。引き続き農場に即した改善策を提案していく予定である。

最後に、農家、獣医師、行政機関が連携して、同じ目標に向かって取り組んだ今回の事例を活かし、今後も地域防疫向上にまい進していく所存である。